

FULL-SATO プロジェクト

事業担当者

造形学部 山本浩二、垂見幸哉 教育学部 長橋秀樹

目的・概要

FULL-SATO プロジェクトとは、2017 年度から始まった「松崎町のうた」を作り上げていくという文化プログラムである。常葉大学教員と文化芸術アソシエイツによって立ち上げられて以来、現在までに 100 を超える歌詞が生み出され、その数は今もなお増え続けている。このプログラムは初めに作曲家によって曲が作られ、そのメロディに対して町民がそれぞれの思いを歌詞に込めていくという内容である。日常の些細な出来事から雄大な自然、あるいは町にゆかりのある偉人など様々なテーマの歌詞が町民一人ひとりの心情を表しており、それらの総体が「松崎町のうた」となる。このプロジェクトには当初から本学造形学部と教育学部の教員、学生が参画しており、歌を作るという音楽的プログラムに対して映像などの美術的アプローチにより活動内容の幅を広げている。活動を進めていく中で松崎町民有志による「松崎町のうたを育てる会」が組織され、広く町民に浸透していくことになった。

初年度は曲の周知活動、2 年目はワークショップなどによる歌詞作りとコンサート活動、3 年目はそれらの集大成としてのコンサートを行った。

町民が町の歌詞を作るという活動に参加することで、改めて地域について思いを巡らせるとともに誇りと愛着を醸成する活動となっている。

事業成果

2017 年以来 2019 年までに 5 回のコンサートを実施、とりわけ 2019 年 12 月の「松崎町のうたコンサート 町民が紡ぐ歌語り」では出演者 150 名、観客 500 名で会場は過密状態となるほどだった。全曲「松崎町のうた」しか演奏しないというコンサートは地元の音楽愛好団体やダンスクラブ、太極拳クラブなどがそれぞれ歌詞の内容に合わせて舞台を作り上げ、大好評を博した。初年度は文化庁の委託事業、2 年目はこどもゆめ基金と丸高愛郷報徳基金、3 年目は静岡県文化プログラムによる助成金を獲得し、コンサート活動意外にも WEB サイト運営、各種ワークショップ実施、映像コンテンツ制作、カラオケ CD 制作、DVD 制作などが成果として挙げられる。また、2021 年春から町内の時報チャイムとして松崎町のうたが採用され、1 日 3 回、異なる音源で町にメロディが流れている。